

# 章 英語活動の取り組み

本校では平成15年度から文部科学省の研究開発指定を受け、小・中の9年間を見通した英語カリキュラムを構築し、コミュニケーション能力を育成する実践を積み重ねてきた。本年度からは平成23年度からの配当時間を鑑み、高学年においては英語活動の時間から、低・中学年においては学校裁量の時間からそれぞれ1時間を充て英語活動に取り組んでいる。

本章では、本校英語活動の基本的な考え方と具体的な実践、その成果と課題について述べていきたい。

## 1 本校の英語活動の概要

### (1) 英語活動の目標

本校では昨年度、新設された外国語活動の趣旨を踏まえ、小学校6年間を通してコミュニケーション能力を育成するため、英語活動の目標を以下のように設定した。

**外国語活動の目標**

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
高学年	英語によるコミュニケーションに関心をもち、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。	簡単な英語や動作を用いて、表現したり答えたりすることができる。	簡単な英語を聞いたり文字や物と結び付けて読んだりして、相手の伝えたいことを理解することができる。	英語と日本語の使い方の違いや外国のくらしなどを体験的な活動を通して理解できる。
中学年	英語を使った活動に関心をもち、自分から進んで参加しようとする。	簡単な英語や動作を用いてゲームをしたり答えたりすることができる。	簡単な英語を聞いたり物と結び付けて読んだりして、相手の伝えたいことを理解できる。	
低学年	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現・理解の能力		
	英語を用いる環境の中で、抵抗なく楽しもうとする。	英語の音に慣れ親しむとともに、簡単な英語を用いて、ゲームを楽しむことができる。		

【6年間を通した英語活動の目標】

### (2) 英語活動カリキュラムについて

昨年度までの研究から、英語活動を通してコミュニケーション能力を育成する上で、「子どもに身近なものや教科と関連したもの、自国や異国の文化に触れるものを題材として設定すること」や「英語を用いてコミュニケーションを行う必然性がある場を設定すること」等が大切であることを見出してきた。

以下は大切にしてきた点と、それらに関係する題材の一部である。

- ・ 子どもの身近な生活場面を考慮した題材 (第1・2学年「家族」、第3・4学年「家」等)
- ・ 教科学習、季節や行事と関連した題材 (第3・4学年「昆虫」、第5・6学年「海」等)
- ・ 自国や異国の文化に触れる題材 (第5・6学年「行事」、第5・6学年「旅行」等)

例えば、低学年では「家族」を題材として設定することで、大好きな家族のことを紹介した

いという気持ちから、コミュニケーションの場面が設定しやすくなる。また、視野が広がる中学年では、理科の学習と関連させて「昆虫」を題材として設定することで、子どもの知的好奇心を刺激し、コミュニケーションへとつなげることができる。さらに子どもの視野を広げたり、世界へのつながりや広がりに関する活動へ発展させたりするために、高学年では外国の「行事」「旅行」等を題材として設定している。

そして、発達段階からこの3つの題材のバランスを考慮し、低学年の子どもにとって身近なもの中心の題材から高学年で取り扱う異国文化へと徐々に移行していくよう、空間的な広がりを意識しながら、次のように題材を傾斜配列している。

学年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1・2学年	家族	身体	数	色	空	動物	乗物	衣服	テレビ	料理	デザート
第3・4学年	月日	店	天気	家	ゾウ	昆虫	買物	本	季節	時間	まち
第5・6学年	花	山	食事	海	大地	木	野菜	行事	旅行	外国	職業

【英語活動カリキュラム（各月の題材配列）】

そして、配列した題材を基に単元名をより目的意識が感じられる名称に変更し、学習した会話表現を活用してコミュニケーション活動が行えるよう、アクティビティに修正を加えた。例えば第5・6学年が11月に取り扱う題材「野菜」であれば、単元名を「オリジナルサラダを作ろう」とし、アクティビティは好きな野菜をたずね合いながらサラダの材料を選ぶ活動を設定した。このように、目的意識がもてるよう単元名を工夫し、その目的に応じた活動や会話表現を繰り返し用いるアクティビティを設定することで、よりコミュニケーションの必然性を高めるようにしてきたのである。また単元によっては、ショー・アンド・テル（発表活動）等、みんなの前でプレゼンテーションすることを目的としたアクティビティも取り入れてきた。さらに、用いる会話表現を双方向のやりとりができるものに修正したり、単語量を会話が成立するのに必要な量に精選したりすること等にも取り組んだ。

以下は、昨年度修正した第5・6学年のカリキュラムの一部である。

Theme	Vocabulary	Activity
Vegetable	spinach, garlic green, pepper, bean cauliflower, turnip eggplant, asparagus, ginger, bean, cabbage, cucumber, corn, potato asparagus, cabbage	What vegetable do you like~? I like ~. Where is ~ from? It's from ~.
<p>【第5・6学年 Vegetable（修正前）】</p> <p>題材名をそのまま単元名として用いていた</p> <p>16個の野菜の単語を設定していた</p> <p>一方がたずねて、他方が答える会話表現を中心に設定していた</p> <p>会話表現をあまり用いないアクティビティを設定していた</p> <p>目的意識がはっきりともてる単元名に変更</p> <p>修正</p> <p>双方向の会話が可能なる表現に変更</p>		
オリジナルサラダを作ろう	lettuce, carrot, onion cucumber, corn, potato asparagus, cabbage	A: What's your favorite vegetable? B: I like ~. B: Do you like ~? A: Yes, I do. It's yummy. No, I don't. It's yucky.
<p>【第5・6学年 オリジナルサラダを作ろう（修正後）】</p> <p>活動に最低限必要な単語だけに精選</p> <p>学んだ会話文を用いながら相手意識をもって交流できる活動に変更</p>		

【カリキュラムの修正例】

## 2 本年度の重点

先述したように、昨年度は新設された外国語活動の趣旨を踏まえ、目標やカリキュラムにおいて改善を図ってきた。しかし、実践を進めていく中で、「学級担任（HRT）はこれまでのようにT2として指導する体制でよいのだろうか」「英語ノートを今後どのように活用していけばよいのだろうか」といった課題が出された。

そこで本年度は実践化に向けて、以下の点に重点を置いて研究を進めていくこととした。

### 学級担任（HRT）の役割の明確化 カリキュラムの見直しと実践 ～英語ノートの活用の視点から～

#### （１）学級担任（HRT）の役割を明確にするために

##### これまでの指導体制の見直し

HRTの役割について、小学校学習指導要領解説外国語活動編や小学校外国語活動研修ガイドブック（以下「ガイドブック」）では以下のように示している。

指導計画の作成や授業の実施に当たっては、学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行うこと。  
（『小学校学習指導要領解説外国語活動編』、7頁）

児童が初めて出会う外国語への不安を取り除き、新しいものへ挑戦する気持ちや失敗を恐れない雰囲気を作り出すためには、豊かな児童理解と高まり合う学習集団作りとが指導者に求められる。このようなことから、外国語活動においても学級担任の教師の存在は欠かせない。（『小学校学習指導要領解説外国語活動編』、18頁）

学級担任は、児童の興味・関心や生活についてよく理解しており、児童が楽しむ活動を考えたり、児童が他教科で身に付けた知識や技能を関連付けた活動を取り入れたりするなど、効果的な学習活動を行うことができる。たとえ英語が流暢に話せなくても、互いにかかわりあって自ら英語に慣れ親しもうとする学級担任の姿勢こそが、児童の外国語に対する興味・関心を高める何よりも大切なきっかけとなる。（『小学校外国語活動研修ガイドブック』、17頁）

英語活動において、授業の雰囲気づくりや、抵抗感をなくす意味でも、HRTの重要性が増してきている。一方、本校ではこれまで、ALT・JTEがT1を、HRTがT2の指導体制で実践を行っていた。今後は、HRTの役割をどのように位置付けていくか、さらに、検討していく必要があると考えた。

##### HRTの役割を明確にした授業実践

HRTの役割を明確にする上で、ALT・JTEにないHRTならではの特性を生かした役割を見出すことが大切である。そこで、その役割を以下のように捉え、実践を積み重ねていくこととした。

##### ア HRTが中心となり、指導案を作成していくこと

HRTは、一人一人がどのような事柄に興味・関心を示しどのような活動を好むか、またどのような知識や技能を身に付けているかといった子どもの実態を理解している。それらの子どもの実態を踏まえることで、子どもたちの興味・関心を引き出し、目的・相手意識をもったコミュニケーション活動を事前に設定することができる。

そこで本年度は昨年度までの指導案を基に、より目的・相手意識をもってコミュニケーション活動が展開できるよう、新たにHRT自身がHRTをT1とした指導案を作成していくようにした。具体的には、指導案は単元（4時間分）を1枚の指導案にまとめ、前時学習したことを振り返りながら、スモールステップで授業が展開できるようにした。また、ALT・JTEと連携を取りながら、どのような目的で、どのようなアクティビティを行うのか、活動や支援を具体的に示すこととした。

第4学年 英語活動指導案 単元名「好きなテレビ番組を紹介しよう」		ALT・JTEの支援		準備物
単元計画	活動	HRTの支援	ALT・JTEの支援	
1	あいさつしたり、簡単な質問に答えたりする。	・楽しい雰囲気をつくり、大きな声で語り返させる。 ・状況に応じて天気や時間、体調などをたずねる。 ・教具の準備を行う。 ・つよよに活動し、規範となる動きを示す。 ・合わせて発音できるように、音楽をかけたリズムを口ずかせる。	・挨拶や簡単な質問を行う。 "Hello, everyone." "How is the weather?" "What is the date?"	
第2週目	4 グループに分かれて練習を行う。	・デモンストレーションを示した後、会話練習の相手を全体→グループとスモールステップで練習を進めていくようにする。 【クラスルーム・イングリッシュ】 Good! / Great! / Good job! / Well done! You did a good job! Make pairs. / Get into pairs. Face each other.	・アクティビティの説明をできる限り英語を用いて説明する。 ・まずHRTとデモンストレーションを行い、ALT/JTEと子どもたち、子どもたち同士と練習の相手を変化させていく。 ・子どもたちのアクティビティにおいて、英語での表現に関する支援を中心に行う。	
第3週目	1 英語であいさつしたり、簡単な質問に答えたりする。	・HRTも質問したり、今月のテーマについて説明したりする。 子どもといっしょに踊り、雰囲気を知らせる。 ②の準備を行い、子どもといっしょに歌って踊る。 ALTとデモンストレーションを行なった後、会話の相手をALTとグループを半分に分けてグループ同士でペアと変えていく。	・ Ask some review questions.	
第4週目	3 好きなテレビ番組は? ①好きなテレビ番組を選び、カードに記入する。 ②友達に好きな番組をたずね、その番組について自分の好みを伝える。 ③交流した内容をカードに記録する。 4 歌本を楽しむ。 5 おわりの歌を歌う。	・子どもといっしょに歌本を楽しむ。 ・今日の振り返り。 【クラスルーム・イングリッシュ】 It's your turn! Find as many as you can! Don't be late! Did you enjoy today's class?	・ Demonstration ALT-HRT. Conversation between ALT and HRT. Conversation between ALT and students. ・ Explain the activity. Student Help to... ・ Read a story book according to the theme.	

HRTの支援をALT・JTEよりも先に示す

ALT・JTEの支援を細かく示す（「どの場面」で「どのようなことをしてほしいか」等）

用いるクラスルーム・イングリッシュを明記する

練習の進め方など細かい内容も記入しておく

つまづきを想定しておく

HRTの支援を明確に示す

ALTが理解できるように、可能な限り英語で示す

そしてこの指導案を基に、英語活動の授業を公開し、HRTがT1として進める授業の在り方やHRTの機能や役割について討議する場を設けた。また討議では、ALT・JTEからも意見をもらい、HRTの役割を明確にしていくことにした。

### イ クラスルーム・イングリッシュ<sup>\*1</sup>を積極的に使用すること

先述の「ガイドブック」では、「互いにかかわりあって自ら英語に慣れ親しもうとする学級担任の姿勢こそが、児童の外国語に対する興味・関心を高める何よりも大切なきっかけとなることは明らかである。」と示している。そこで、授業の中でHRTが積極的にクラスルーム・イングリッシュを使用することや、HRTが疑問に思ったことはALT・JTEにたずねること等を心がけた。

実践を行うにあたり、ガイドブックにたくさん例示されているクラスルーム・イングリッシュ

\*1 あいさつや指示、質問、依頼、激励など、英語の授業等で使われる表現。子どものリスニング能力を飛躍的に向上させるというものではなく、外国語活動の雰囲気づくりとしての意味合いが強い。

ユの内、まず始めは「2つの単語でできている文」を積極的に使用することとした。「2つの単語でできている文」とは「Stand up.」「Go ahead.」等の会話文のことであり、あいさつや指示を出す場面等において、比較的抵抗無く簡単に用いることができると考えた。

さらに、「Good idea!」「You can do it.」等、特に「ほめる・励ます内容」は楽しい英語活動の雰囲気を作り出す視点からも積極的に用いることが重要と考え、使えるクラスルーム・イングリッシュの幅をさらに拡張していった。

#### ウ 子どもをつまずきを捉え、適切な支援を行うこと

子ども一人一人の実態を十分理解していることがHRTの特性である。そのため、子どもの普段の様相や英語活動前後の様相と、英語活動での様相とを比較することで、子どもをつまずきを捉えることができる。そこで、HRTはそういった視点から、その場、その時に応じた適切な支援を試みることにした。

#### HRTとALT・JTEの新たな役割の設定

本校は、1学年2クラスで構成されており、HRTとALTのペアとHRTとJTEのペアを1週間ごとに交替しながら英語活動を実践している。これまで述べてきたことを踏まえ、改めてHRTとALT・JTEの主な役割の分担を考えた。

HRTの役割として、T1として授業の進行をする以外にも、説明が十分理解できておらず補足が必要と感じたときに日本語で説明を行ったり、発表や交流の場面においてうまく活動ができていない子どもに声をかけたりするたりすることとした。また、積極的にクラスルーム・イングリッシュを使用したり、分からないことがあればALT・JTEにたずねたりと、共に英語を学ぼうとするモデルを示すこととした。

一方ALT・JTEの役割としては、英語の正しい発音に関する支援を行ったり、外国の文化について紹介したりすることを中心に行うこととした。また、ショー・アンド・テル等の場面では、子どもの発表を評価する役割も担うこととした。

教師	授業の中での役割
HRT	T1として授業の中心となって進行し、子どもとALTのコミュニケーションの仲介、モデルになって活動したり、子どもをつまずきに対応したりする等の授業の雰囲気づくりを行う。
ALT	T2として、新しい教材についてネイティブな発音で、全て英語で指導する。また、子どもの発音について評価を加える。
JTE	T2として、基本的に全て英語で指導を行うが、子どもの実態に合わせて柔軟に日本語での説明も加えていく。また、子どもの発音について評価を加える。

【ALT, JTE, HRTの役割】

#### (2) カリキュラムの見直しを図るために ~英語ノートの活用の視点から~

本年度から英語ノートが全国に配布され、英語ノートを用いた英語活動が各地で実施されている。英語ノートの使用について、昨年度の本校の課題として次のようなことが挙げられた。

来年度から使用される「英語ノート」についても、どのように本校の英語活動に活用できるか、検討していく必要がある。  
 (『本校第92回教育研究発表会研究紀要』, 103頁)

本校ではこれまで独自にカリキュラムを設定し、教材を開発してきた。加えて、本校のこれまでの実践に、英語ノートを活用することができないか考えた。

英語ノートの取り扱いについては、「ガイドブック」では次のように述べられている。

…(前略)…共通の指導内容が高学年から導入されることを考え合わせれば、『英語ノート』で取り扱う初歩的な内容や、音声面での活動等を低学年や中学年から取り入れることは可能であろう。しかし、中学校との接続を考慮すると、第6学年の終了時までの指導内容はそろえることが望ましいであろう。  
 (『小学校外国語活動研修ガイドブック』, 9頁)

このことから、英語ノートに示された内容や方向は、各学年の発達段階や学校の実態に合わせて活用を図ることが可能であることが分かる。

そこで、本校のカリキュラムと英語ノートとの整合を図り、英語ノートの活用の在り方を探っていくこととした。

#### 本校のカリキュラムと英語ノートとの整合を図る

本校のカリキュラムと英語ノートで設定されているカリキュラムを比べ、活用の仕方を探った。

#### 同様の目的や内容が設定されているもの

英語ノートに本校とほぼ同じ目的や内容が見られるものがある。これらの単元においては、英語ノートを用いて実践することとした。

本校の単元	英語ノートの単元
・オリジナルサラダを作ろう	・ランチメニューを作ろう (英語ノート1)
・じまんでできることって何?	・できることを紹介しよう (英語ノート2)
・将来の夢を語り合おう	・将来の夢を紹介しよう (英語ノート2)

#### 部分的に重なるもの

英語ノート的一部分を、本校の実践に使うことができるものがある。これらの単元においては、部分的に活用して本校の実践に取り入れることが可能であると考え、実践につなげた。

本校の単元	英語ノートの単元
・好きなものは? ・誕生日はいつ?	・自己紹介をしよう (英語ノート1)
・何曜日が一番好き? ・誕生日はいつ?	・カレンダーを作ろう (英語ノート2)
・何時に起きる?	・自分の一日を紹介しよう (英語ノート2)

#### 本校のカリキュラムに新たに加えることができるもの

英語ノートの内容を加えることで、新たな活動が考えられるものがある。さらに子どもの興味・関心を生み出すため、本校のカリキュラムに加えていくこととした。

本校の単元	英語ノートの単元
・動物園のガイドをしよう	・道案内をしよう (英語ノート2)

### 第1学年から第4学年までに学習しているもの

英語ノートの中に第1学年から第4学年までで既に学習している内容がある。これらの内容については学習済みであると捉え、該当する部分にあたる英語ノートを第5・6学年において使用しないと判断した。

英語ノートの単元	
・世界の「こんにちは」を知ろう（英語ノート1）	・ジェスチャーをしよう（英語ノート1）
・数で遊ぼう（英語ノート1）	・クイズ大会をしよう（英語ノート1）
・行ってみたい国を紹介しよう（英語ノート2）	

### カリキュラムの設定

以上のことから、本校のカリキュラムと英語ノートとの関連を踏まえて、第5・6学年の単元を次のように設定した。

	本校の単元	活用する英語ノートの単元
第五学年	あいさつ・復習	
	好きなものは？	自己紹介をしよう
	誕生日はいつ？	自己紹介をしよう
	何曜日が一番好き？	
	何時に起きる？	
	オリジナルサラダを作ろう	ランチメニューを作ろう
	プレゼントにほしいものは何？	
	じまんでできることって何？	
第六学年	あいさつ・復習	
	動物園のガイドをしよう	道案内をしよう
	誕生日はいつ？	カレンダーを作ろう
	何曜日が一番好き？	カレンダーを作ろう
	何時に起きる？	自分の一日を紹介しよう
	プレゼントにほしいものは何？	
	将来の夢を語り合おう	将来の夢を紹介しよう
	じまんでできることって何？	できることを紹介しよう

### 【新しく設定したカリキュラム ～第5・6学年～】

このように設定したカリキュラムを基に、実践を行っていった。実践についての詳細は97頁にて詳述する。

## 3 実践事例

### (1) 学級担任（HRT）の役割を明確にした実践例 ～「気象予報士になってレポートをしよう」(第4学年)～

本単元では、英語を用いてコミュニケーションを行う必然性をもたせるため、気象予報士になって外国から友達に天気予報を伝える活動を設定し、HRTの役割を明確にして実践を行った。

第4学年 英語活動指導案		単元名「気象予報士になってレポートをしよう」		(6月)	
単元目標 ・・・新しい英語の表現やリズムに興味・関心をもち、楽しんで表現することができる。・・・気象予報士になりきって習った表現の方法を使い、友だちに伝えることができる。					
単元計画	活動	HRTの支援	ALT・JTEの支援	準備物	
1	英語であいさつをする。(毎時開演)	授業の始まりのあいさつを行い児童に簡単な質問を英語で行う。	HRTの質問を受けた天気や体調、曜日等の質問を行う。	国旗・天気カード	
2	ウォーミングアップ(毎時開演)	ALT・JTEにも簡単な質問を行い交替する。		傘、帽子、手袋、コート、サングラス	
3	天気予報の発表を行う。新しい表現を知る。	ALT・JTEと役割を分担して英会話体験を行い、その後学級を2つに分けて行う。		BGM	
4	おわりの歌を歌う。(毎時開演)	デモンストレーションをALT・JTEと行う。		ステッカー	
振り返り		感情を出すためにナショナルジオグラフィックのテーマ曲を天気ニュースのBGMを流す。			
		教室をスタジオにして、ディレクター、ミキサー、気象予報士の配役を決めておく。			
		希望者を募り発表の練習を行う。			
		児童のジェスチャーや笑顔などを賞賛する。			